

「山形発・地元ナース養成プログラム」事業評価表

(S : 計画を上回って実施している A : 計画を十分に実施している B : 計画を十分には実施していない C : 計画を実施していない)

【学士課程教育】

計 画	実施状況	成果と今後の課題	評価	
			自己	外部
<p>○ 4月 2年次新設科目の「相互理解連携論」及び「ジェネラリズム看護論」開講</p> <p>*教育効果を高めるため「ジェネラリズム看護論」は開講時期を後期から通年に変更して開講。最前線で活躍する地元ナースの講義と併せて就職の提供も含める。</p>	<p>○ 本事業により開講した3科目はいずれも選択科目であるので、年度当初のガイダンスで科目の目的や意義について全学生に案内し募集を募った。28年度の履修登録状況は、「地元論」39人、「ジェネラリズム看護論」36人、「相互理解連携論」40人であった。</p> <p>「地元論」は、地元に対する理解と愛着を深め、地元を創造する重要性を認識することを目標とした。2年目となる今年度は、昨年度の実施状況を踏まえ、地元で働くこと、地元を創造することについて具体的にイメージできるような内容に改変した。同じ看護職でも場所や仕事内容が異なるスポット講師からの講義の他、「自分にとって地元で生きるとは」について学生間で討議した。</p> <p>今年度から開講した「ジェネラリズム看護論」は地方に暮らす人々の健康問題の多様性と個別性を理解し、それらに対応できるジェネラリストの看護活動を理解することを目標とした。前期は、地域包括ケアシステムの構築について、後期は、看護に期待されているジェネラリストに焦点を当て、地方の小規模病院で活躍している認定看護師や看護管理者をスポット講師によるパネルディスカッションの他、地方に暮らす人々の多様な健康問題からくるニーズと看護の役割を意見交換した。</p> <p>同じく今年度から開講した「相互理解連携論」は、集団や地域における連携を進める上で、お互いを理</p>	<p>【新設科目の開講】</p> <p>成果；3科目いずれも、授業終了後のミニッツペーパーやレポートで、授業の目標の達成度を評価した。「地元論」では、学生の就職先のイメージが、当初は大規模病院や都市部の病院であったが、授業終了時には多様な働き方や多様な生き方へと広がっていた。「ジェネラリズム看護論」では、その人が住む地で、その人らしく生きることを支える看護を考える機会となり、地域住民の健康と生活を支える看護について確認できた。「相互理解連携論」では、相手を理解するために自分の特徴を理解することの必要性や、ブラッシュアッププログラム修了生の姿をモデルとして、看護師のファシリテーションのあり方を学んでいた。</p> <p>課題；①各学年の6割程度の履修学生数にとどまっている。 ②3科目の学生の評価をふまえ、より効果的な教育を目指す 課題への取組方針；①年度当初のガイダンスでは、今年度の学生の反応を含め、各科目の意義や目的がイメージしやすい</p>	A	A

<p>○ 6月 27年度リカレント教育修了生の小規模病院等での総合実習開始。修了生がいない小規模病院等も地元医療福祉を強化した実習実施</p> <p>*実習施設の開拓、文科省に新規実習施設の届け出。遠隔地の実習施設との打ち合わせ・実習時にICTを活用。</p>	<p>解するためのスキルを習得することを目標としたワークショップ形式の演習を中心に行った。演習の一部に、本事業のブラッシュアッププログラム修了生と、大学見学に来校していた高校生も演習に参加し、他者の理解やファシリテーションを経験した。</p> <p>○ 27年度リカレント教育(看護ブラッシュアッププログラム)修了生が勤務している川西湖山病院において、実習を開始した。</p> <p>「総合看護実習Ⅰ」成人看護学慢性期領域では、新規実習施設の川西湖山病院の他、リカレント教育修了生はいないが小規模病院等であり医療保健福祉の各職種が連携している矢吹病院および、公立置賜総合病院のサテライト病院である南陽病院と長井病院で6人ずつの学生が実習を行った。</p> <p>「総合看護実習Ⅰ」在宅看護学領域では、リカレント教育修了生はいないが在宅医療や福祉サービスを利用しながら在宅緩和ケアへの移行に力を入れている小規模病院である河北病院緩和ケア病棟を新規に実習施設とし2人が実習した。また、医療保健福祉の各職種が連携し予防・治療・在宅支援が一貫して行われている本間病院では1人が実習した。本間病院は本学から2時間以上かかる距離にあるため、実家から通える学生を配置し、実習指導にICTを使用した。</p> <p>リカレント修了生のいる小国町立病院に、29年度の総合看護学実習Ⅰ・成人慢性期領域の新規実習施設として依頼した。</p>	<p>内容の案内とする。</p> <p>②28年度の学生の評価をふまえ、平成29年度の科目のシラバスに反映させる。</p> <p>【小規模病院等での総合実習】</p> <p>成果；川西湖山病院では、新規の実習施設であったが、本学の実習到達目標や学生のレディネスを十分理解し指導していただいた。学生は地域における医療連携について体験し、状況にあわせ医療体制を再構築することを学んだ。</p> <p>河北病院緩和病棟での実習は新規であったが、実習目標に対する指導者の理解があり、学生は医療と在宅との連携、その地域の社会資源を活用しながら在宅緩和ケアを支える看護の役割を学んだ。</p> <p>本間病院での実習指導では、ICTを用いて学生と実習内容の調整、記録の確認、カンファレンスの視点等の指導を行い、ICTを活用できることを確認できた。</p> <p>課題；4施設にリカレント教育修了生がいるが、今年度実習できたのは1施設のみであった。</p> <p>課題への取組方針；リカレント教育修了生の小規模病院への実習依頼を行うにあたり、小規模病院の場合、実習受け入れ人数が1～2人で大学から遠く、公共交通機関の便が悪い施設が殆どのため、当病院に通学できる学生に限られるので、実習施設への通学を配慮した学生の配置を行う。</p>		
--	---	---	--	--

<p>○ 10月 29年度以降の既存科目において、地元医療福祉の内容を強化できないか検討。</p> <p>○ 10月 30年度以降の実習計画を策定し、実習施設に実習依頼</p>	<p>○ 本事業により新規に開講した3科目が終了した時点で、29年度以降の既存科目において、地元医療福祉の内容を強化できないか検討した。また、本事業による学士課程教育の到達目標の検討を行った。さらに、到達目標にあわせ、3科目の内容の確認について検討した。</p> <p>○ 30年度の総合看護学実習Ⅰの実習内容の検討を開始した。リカレント修了生の施設の実習施設拡大を検討した。</p>	<p><b>【既存科目での地元医療福祉の内容強化】</b>  成果；多くの既存科目に地元医療福祉や連携に関する内容は含まれている。また、各科目において、地域包括ケア等の社会情勢の動きに併せ、地元医療福祉の連携に関する内容は強化されている。  新規に開講した3科目が終了した時点で、本事業による学士課程教育の到達目標の検討を行った。本事業の成果を明確にするために、新規の3科目と総合看護学実習で小規模病院での実習を経験した学生の到達度の成果を明らかにすることが必要であることを確認した。  課題；到達目標を検討したが、具体的な評価項目は明確化されていない。  課題への取組方針；評価項目を検討する。</p> <p><b>【30年度以降の実習計画策定】</b>  成果；30年度の総合看護学実習Ⅰでは、新設の3科目をふまえた内容の実習を行う必要があることを確認した。現在、試行として行っている総合看護学実習の施設や、リカレント修了生の所属する施設が今後増加することを期待し、今後成果をあげることのできる実習施設を検討する。  課題；実習施設の依頼までいたっていない。  課題への取り組み；試行で行った実習の評価やリカレント修了生の在職する施設の特徴から、実習施設の絞り込みを行う。</p>	
--	--	--	--

【リカレント教育】

計 画	実施状況	成果と今後の課題	評価	
			自己	外部
<p>○ 7月 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム開始（～9月）</p>	<p>○ 8月9日から9月29日にかけて、延べ21日間にわたり、小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムを4科目26単元で実施した。単元を継続して受講できるように昨年度と同様の科目とし、昨年度の状況を踏まえた授業構成にした。</p> <p>受講生の総人数は34名であった。全履修者は5名で、昨年度から継続して全科目を履修を終了した1名と合わせて、今年度の履修証明書交付対象者は6名であった。また、単元履修者は29名であった。</p> <p>又、昨年度「通学時間がラッシュと重なり大変であった」との声があり、講義開始時間を検討し、1限目の講義を昨年度より10分遅らせて開始した。</p>	<p>【ブラッシュアッププログラム】</p> <p>成果；受講生の総数は昨年度より少なかったが、履修証明書交付対象者は昨年度と同様であった。授業内容については、終了後のアンケートからも満足度が高かった。また、講義開始時間を遅らせたことで、通学の負担を多少軽減させることができた。</p> <p>課題；受講生の所属施設がやや固定化している（新規施設からの申し込みは3名）ため、更に多くの施設に参加を呼び掛ける必要がある。</p> <p>課題への取組方針；募集案内をホームページや印刷媒体を用い、今年度より早い時期に、案内回数を増やして周知を図る。</p>	A	A
<p>○ 5月 ブラッシュアッププログラム受講生にフォローアップ研修会案内送付</p>	<p>○ 4月27日、平成27年度履修証明プログラム修了生6名に対し、フォローアップ研修の案内を送付した。</p>	<p>【フォローアップ研修】</p> <p>成果；昨年度のブラッシュアッププログラム修了生6名全員から受講希望があり、フォローアップ研修に対する期待があることを実感できた。</p>		
<p>○ 6月 フォローアップ研修実施（～11月）</p>	<p>○ 研修は6月から12月の8日間で実施した。案内を送付した6名全員から受講希望の返事が得られたが、1名は勤務の調整がつかず5名の受講となった。</p> <p>内容は、「指導力スキルアップ研修」、「看護研究スキルアップ研修」、「地元医療連携ブラッシュアップ研修」とした。「指導力スキルアップ研修」で</p>	<p>看護過程論は、年代によって学生時代に履修していない受講生がおり、「今回の学びは新人教育や学生指導に活かせる内容であった」との感想が得られた。</p> <p>看護研究は、昨年度のブラッシュアッププログラムの学びを活かし、再度研究計画書を作成し、調査実施直前までの到</p>		

<p>○ 1月 28年度受講生追跡調査</p> <p>○ 3月 ブラッシュアッププログラム案内送付</p>	<p>は「看護過程論」「基礎看護方法論」の学部の講義・演習に参加、「看護研究ステップアップ研修」では看護研究計画書の作成・研究実施・まとめについて講義・演習を実施した。看護研究の研修に際しては、看護研究相談・支援チームの教員が講義・演習を担当し、各研修生の看護研究について各々の進捗状況に合わせて、講義・演習、メールを用いての指導・支援を実施した。また、「地元医療連携ブラッシュアップ研修」では学部の「相互理解連携論」の講義・演習に参加し、連携を進める上で必要なスキル（ファシリテーション・コーチング等）について学習する機会を提供した。</p> <p>○ 1月に28年度受講生に対し、3か月後調査を実施している。現在、回収中である。</p> <p>○ 3月に小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの案内を作成し、送付する予定である。</p>	<p>達となった。今後は看護研究相談・支援チームのメンバーで、研究のまとめから発表に向け継続して支援していく予定である。研修生からは「研究については苦手意識があったが、この研修で指導が受けられたことで研究への意欲が増した」、「研究の実施・まとめに向けてもっと研修時間が欲しい」との感想や意見があった。</p> <p>相互理解連携論は、学生との演習を通してコミュニケーションスキルを強化する内容であった。研修生からも「繰り返し学び、演習を経験することで自身にコミュニケーション力が付いてきていると実感した」、「ファシリテーターの役割りの場面で活かせる内容だった」との感想が得られた。</p> <p>課題；研修の内容は昨年度のブラッシュアップの受講生の「学びを深めたい」という意見を基に組み立て、概ね要望に合致していたと推測される。さらにフォローアップ研修受講生を対象にしたアンケート結果を分析し、課題を抽出する。</p> <p>課題への取組方針；研修生の希望や意見を聴き、次年度の研修内容に反映させる。</p>	
---	--	--	--

【人事交流】

計 画	実施状況	成果と今後の課題	評価	
			自己	外部
<p>○ 8月 大学と小規模病院等の人事交流実施（～11月）</p>	<p>○ 今年度新たな協力施設として、真室川町立病院、尾花沢病院、順仁堂遊佐病院の3病院が加わり、「連携に関する協定書」を締結した。この結果、協力施設は8施設となった。</p> <p>この8施設のうち、今年度人事交流を実施する病院が、大学から病院へ2病院、病院から大学へ5病院となり、それぞれ「職員研修に係る覚書」を交わした。</p> <p>大学から病院へは、5日間の研修日程で8月に公立高島病院、10月～12月にかけて尾花沢病院に職員を各1名ずつ派遣した。</p> <p>又、病院から大学へは、3日間の研修日程で10月25日～27日に最上町立最上病院、川西湖山病院、10月31日～11月2日に小国町立病院、11月17日、18日、11月21日に公立高島病院から職員が来学し人事交流を実施した。予定していた順仁堂遊佐病院については、急遽都合が付かず派遣が出来なくなった。</p>	<p>【人事交流の実施】</p> <p>成果；受け入れ病院から希望する時期に希望する内容で研修を計画して頂くことが出来、大学教員、病院側の双方が満足のいく人事交流になった。</p> <p>課題；派遣時期、期間を設定するのにあたって、大学では学内の実習や授業等の兼ね合いがあり、病院側では人員等の課題があり、現在実施している期間以上の長期の交流を実施するのは困難であった。</p> <p>課題への取組方針；学内で派遣する教員の選定をもっと早い時期に行い、少しでも長い日数での人事交流を実施できるよう調整を図る。又、病院側については、人事交流評価会議等で人事交流についての理解をお願いする。</p>	A	A
<p>○ 12月 実施病院等の院長・看護部長との懇談会により評価</p>	<p>○ 12月14日（水）に人事交流評価会議を実施した。人事交流を実施した病院等の看護部長と今回の人事交流の実施結果を評価し、今後の人事交流の実施方法等について協議を行った。</p>	<p>【懇談での評価】</p> <p>成果；人事交流に参加した病院のほか、今後参加を考えている病院の看護部長も参加され、活発な協議が行われた。</p> <p>課題；病院から派遣できる期間については各病院の事情により様々である。</p> <p>課題への取組方針；大学で受け入れられる期間の研修内容を示して、その日程の中から病院側が希望日数を派遣する方法などが提案された。</p>		
<p>○ 12月 29年度人事交流を希望する小規模病院等を募集</p>	<p>○ 人事交流評価会議、事業報告会において、平成29年度の人事交流の意向確認・調整を行った。</p>			

【看護研究相談・支援】

計 画	実施状況	成果と今後の課題	評価	
			自己	外部
<p>○ 常時 看護研究相談・支援事業</p> <p>○ 4月 小規模病院等看護職との共同研究制度実施</p> <p>○ 随時 看護研究に係る研修会の開催</p>	<p>○ 平成27年度より継続して実施している看護研8件と平成28年度に新規に申し込みのあった看護研究29件の合計37件の相談について、4名に教員が支援を行っている。そのうち5件が学会発表、14件が院内発表、14件が庄内地区四老健症例発表会での発表を行った。</p> <p>○ 4月から小規模病院等の看護職の方と看護共同研究の取組を始めるべく、学内でのフロー等を整理し、その旨や手続きをホームページに掲載するとともにチラシを作成し、県内の小規模病院等に送付した。 現在までのところ、個別での看護共同研究の申し込みは未だないが、フォローアップ研修の受講者同士の関わりの中から抽出された課題について、大学教員との共同研究が緒に着いたところである。</p> <p>○ 病院に赴いて3件の研修会を実施した。その内容は、「看護研究のテーマの絞り込み」、「看護研究を指導するために」と言うテーマであり、いずれも県立河北病院で行った。 大学においては、6月に「看護研究研修会（入門編）」、9月に「看護研究の基礎」（看護ブラッシュアッププログラムと共同開催）を開催した。 また、今年度より実施しているフォローアップ研修</p>	<p>【看護研究相談・支援】 成果；看護研究相談の申込件数は、昨年度とほぼ同様の件数である。学会発表となったものは5件であった。 課題；昨年度関わった施設からの申込みが主で新しい所からの申込みがない。 課題への取組方針；機会のある毎に、看護研究相談・支援事業を実施していることをPRする。</p> <p>【看護共同研究】 成果；小規模病院等の看護職との共同研究の仕組みを構築することができた。 課題；現在までのところ、小規模病院等からの申込みがない。 課題への取組方針；大学から病院等へのアプローチや大学教員に対して小規模病院等における取組課題の紹介など大学と病院間の橋渡しの機能を検討する。</p> <p>【研修会の開催】 成果；病院で開催した研修会は参加者が多く好評であった。 課題；大学で実施した研修会については、広報日数が短かったためか参加者が少なかった。 課題への取組方針；大学を会場とする研修会の実施にあたっては広報をできるだけ早めに実施し周知を図る。</p>	A	A

<p>○ 6月 看護研究発表会</p>	<p>の「看護研究」の科目について、看護研究相談・支援チームの教員が前後期合わせて6日間計8時限の講義・演習を担当し、各研修生の看護研究について各々の進捗状況に合わせて、講義・演習、メールを用いて指導・支援を行った。</p> <p>○ 6月に開催した中間報告会の中で、看護研究発表会を実施した。平成27年度に看護研究相談支援の取組で支援を受けたもののうち、学会発表を行った看護研究1件と院内研究1件を発表して頂いた。</p>	<p><b>【フォローアップ研修での研修】</b>          成果；研修終了まで全員が研究実施できるところまでに至った。今後は看護研究相談・支援チームの教員で継続して研究のまとめから発表に向けて支援していく予定となった。満足したと言う意見と共に、「もっと多くの研修時間が欲しい」との意見もあった。          課題；研修時間の設定等を検討する必要がある。一方、担当教チームの教員のみに関わりでは、時間の確保が難しい。          課題への取組方針；研修生の希望を把握し、支援の成果が上がるような関わりや教員の確保を検討し、実施に繋げる。</p> <p><b>【看護研究発表会】</b>          成果；外部で看護研究発表を行う機会が少ない小規模病院等の看護職の発表の機会を作ることができた。          課題；中間報告会の中での発表会であり演題数に限りがあったため、2題の発表となったが、看護研究を実施し纏めることが出来たもの全てについて発表することができる機会となることが望ましいと思われた。          課題への取組方針；次年度も発表会を企画し、小規模病院との看護職が外部で看護研究を発表する機会になるようにしていきたい。</p>	
---------------------	--	---	--



【ICT活用】

計 画	実施状況	成果と今後の課題	評価	
			自己	外部
<p>○ 4月 学生の実習におけるICT活用の検討開始及び試行（～8月）</p>	<p>○ 実習先でのICT活用にあたり、iPad mini を使用機材として選定した。実習開始前に、使用予定の学生に対して、使用方法について事前説明し、学内でデモを行った。</p> <p>実習期間は、6月6日～16日のうちの9日間で、実習期間中のICT利用は3回であった。使用目的は、実習状況や実習スケジュール等の確認であった。3回の使用において、音声や映像の途切れ等の通信トラブルは見られず、スムーズなやり取りを行うことができた。</p> <p>担当教員からは、遠距離で教員が実習施設に赴く事ができない場合でも、ICTを利用して学生と教員が顔を合わせて話をする事ができ、より細やかに実習状況を把握し、学生に対してアドバイスできるという意見があった。</p>	<p>【実習におけるICT活用】</p> <p>成果；学生の実習において、ICTを活用して実習状況の確認等を行う事ができた。また、その際、通信トラブルもなく、スムーズなやり取りを行う事ができた。</p> <p>課題；今年度は、学生と教員のやり取りの活用のみであった。今後は、教員と実習指導者との連絡調整や、学生、実習指導者、教員の3者のやり取りでの活用についても検討していく。</p> <p>課題への取組方針；実習前の打ち合わせや、実習中のカンファレンスなどの場での活用可能性について実習施設の協力のもと、検討していく。</p>	A	A
<p>○ 随時 リカレント教育及び看護研究相談・支援におけるICT活用を実施</p>	<p>○ 昨年度の課題である、音声や映像の途切れや切断などのトラブルを改善するために、学内および協力施設のスピードテストを事前に行った。その結果をもとに、学内では昨年度の無線での接続から有線での接続に切り替え、さらにスピードが確保できそうな場所をリカレントの講義室として使用した。</p> <p>その結果、音声聞き取りにくいという状況は複数回みられたが、映像が切断する状況は改善された。昨年度と比較して、タイムラグも短くなったとの意見もあった。また、講義が中断することがないように、チャットを利用して接続状況の確認や、分かりにくい事などについて補足した。</p>	<p>【リカレント教育等でのICT活用】</p> <p>成果：接続状況が大幅に改善することができ、講義中の聞き取りにくさはあったものの、昨年度と比較してスムーズな講義運営を行う事ができた。</p> <p>課題：ネットワーク接続状況は大幅に改善されたが、一部音声聞き取り難いという場面も見られた。これには、受講者側の接続状況の問題もあると考えられる。また、パワーポイントやホワイトボードなどの文字が見え難いという意見もあった。スライドの背景色や文字の大きさによっては、カメラを通して見ると文字が見え難い場面</p>		

	<p>今年度のリカレント教育におけるICT利用は、延べ26施設50名の利用であった。</p> <p>看護研究相談・支援におけるICT活用については、今年度は研究相談を行った施設が近距離であり、ICT活用の必要性がなかったため、ICT利用はなかった。</p>	<p>があった。</p> <p>課題への取組方針：接続状況について、現在協力病院では、Wi-Fiルーターを使用し、無線で接続している状況である。電波状況の改善や、有線での接続の検討等、さらに改善できるよう検討していく。また、講師の話すスピードによっても聞き取り難さに影響があると考えられるため、事前に講師に対して話すスピードへの配慮をお願いする。パワーポイントについては、文字の大きさは背景色について事前に指定しておくことで改善されることが考えられる。</p>		
--	--	--	--	--

【事業普及】

計 画	実施状況	成果と今後の課題	評価	
			自己	外部
<p>○ 随時 ホームページ更新、ホームページコンテンツの見直し、修正</p>	<p>○ 1月末時点で25回のホームページ更新を行った。ホームページのコンテンツの見直し、修正については、「本事業の協力施設」と「事業報告」の2つの新しいコンテンツを加えたことである。「本事業の協力施設」のコンテンツでは、協力施設についての説明を行うとともに、各協力施設にリンクを貼っている。又、トップページにも各病院・施設と本事業の関連機関のバナーを貼り、協力施設や関連機関がわかりやすいようにした。「事業報告」のコンテンツでは、これまでの活動について知ることができるようなページとした。</p> <p>又、本事業のロゴマークを基に本事業のバナーを作成し、各協力病院のホームページに本事業のバナーを貼ってもらうように依頼した。これにより本事業のホームページへのアクセス数の増加に務めた。</p>	<p>【ホームページ】</p> <p>成果；ホームページの更新について出来るだけタイムリーな情報が掲載できるよう実施した。協力施設のバナーを添付したことで、本学と協力施設との連携をPR出来た。又、本事業のバナーの作成により各協力施設等のホームページに掲載してもらうことができ本事業のホームページの広報に繋がった。</p> <p>課題；実施しているプログラムについてもっと細かに実施状況を更新して、事業内容を発信していく必要がある。</p> <p>課題への取組方針；優先的に実施していく事案としてホームページの更新をあげ、情報発信していく。</p>	A	A
<p>○ 随時 本事業の評価・効果に関する研究を関係学会に発表及び論文投稿</p>	<p>○ 平成28年9月10日(土)～11日(日)に第19回北日本看護学会学術集会(於：宮城大学)において、平成27年度の1年間に取り組んだ看護研究相談支援の実施状況から得られた実態や課題についてまとめ、「小規模病院等看護職に対する看護研究相談支援の取り組みについて」として発表した。</p> <p>平成28年12月10日(土)～11日(日)に第36回日本看護科学学会学術集会において、山形県内の小規模病院における看護研究の実態調査に関連して2題、小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの実施に関して2題を発表し、山形発・地元ナース養成プログラムに関する交流集会(参加者：本学関係者3</p>	<p>【学会発表等】</p> <p>成果；発表後、他県における支援が難しい現状や支援を行う教員側から見た課題、そして病院管理者側からの意見等多くの言葉を頂き、興味・関心を持ってもらえる内容であったと思われる。</p> <p>日本看護科学学会における発表、交流集会により地元ナースへの関心が高まった。</p> <p>課題；今年度の学会発表は合わせて12本予定しているが、未だ論文投稿までには至っていない。</p> <p>課題への取組方針；論文投稿に向け準備</p>		

<p>○ 12月 協力施設を対象に28年度の事業報告実施</p> <p>○ Jナース通信の発行</p> <p>○ 活動報告書発行</p>	<p>名、他大学等67名)を行った。 平成29年3月13日(月)に第43回山形県公衆衛生学会において、本事業に関する発表を6題予定している。</p> <p>○ 平成28年12月14日(水)に協力病院を対象に本年度の事業報告会を実施した。参加施設は、小国町立病院、公立高島病院、はとみね荘、尾花沢病院、最上町立最上病院、真室川病院及び順仁堂遊佐病院であり、看護部長の他、ブラッシュアップ受講者等も出席し、合わせて17名の方が参加となった。 本学からの各事業の本年度の実施状況等の説明に続き、様々な意見交換が行われた。</p> <p>○ 本事業の取組について紙面に纏めた「Jナース通信」を年2回(10月・2月)発行した。本学の看護学科学生、保護者の他、県内の小規模病院、高齢者施設等に配布した。又、本事業のホームページでも見ることが出来るようにした。</p> <p>○ 3月に平成28年度活動報告書を発行し、全国の看護系大学、県内の小規模病院等に送付予定</p>	<p>を行う。</p> <p>【協力病院への事業報告】 成果：協力施設に対し事業報告を行ったことにより、取り組んでいる内容への理解や進捗状況について把握する機会となった。大学と協力施設が一同に会して事業について話し合うことにより、他の協力施設との意見交換もでき、各事業の取組に関して積極的な意見や案が出された。 課題；すべての協力施設が出席できる日程が調整できなかった。 課題への取組方針；欠席の協力施設に対し、事前に配布資料を送付し、意見や案を聴取し、会の開催時に報告できるようにするなど、欠席施設に対する案を検討する。</p> <p>【Jナース通信】 成果；紙面を作成することで、インターネットを活用することが少ない施設等に対して本事業を周知することができた。又、本学の学生の保護者への配布は一般住民への事業普及にもつながった。 課題；当初予定した部数よりも送付先や配布場所の数が多くなり、自由に持ち帰ることが出来る資料としての配布までには至らなかった。 課題への取組方針；発行部数を増やすと共に興味や関心を引く内容となるように掲載内容の充実を検討する。</p>	
--	---	---	--

【事業推進・評価】

計 画	実施状況	成果と今後の課題	評価	
			自己	外部
<p>○ 6月 中間シンポジウム開催</p>	<p>○ 山形発・地元ナース養成プログラム中間報告会&amp;シンポジウムを「地元ナースを語ろう！～地元医療福祉を支える看護職～」と題し、6月19日（日）に開催した。当日は午前中に中間報告会、午後からシンポジウムを開催した。中間報告会では、来賓として山形県健康福祉部地域医療対策課長及び山形県看護協会会長様の挨拶を頂き、全体会での報告の後、二つの分科会に分かれ、リカレント教育と看護研究相談・支援事業の取組の現状等について紹介した。なお、看護研究相談・支援の分科会では、相談を受けた看護研究2題の発表も行った。</p> <p>午後からは、「地域包括ケアシステムにおける地元ナースの役割」について、4人のシンポジストから報告を頂き、フロアを交えて地元ナースの役割りや求められているコンピテンシー等を探った。</p> <p>当日の様子は翌日の山形新聞の記事に掲載された。なお、当日の参加者は学生を含め約150名であった。うち、83名から中間報告会&amp;シンポジウムについてのアンケートの提出を頂いたが、約8割の方が「よかった」と言う回答だった。</p>	<p>【中間シンポ】</p> <p>成果；本プログラムのこれまでの成果を広く周知することができた。又、地元ナースの役割り等について再確認することができた。</p> <p>課題；報告会やシンポジウムの内容については、時宜を得たテーマで議論も深まったが、参加者が予定していた人数より少なかった。</p> <p>課題への取組方針；本プログラムの周知を更に図っていく。</p>	A	A
<p>○ 9月 各専門チームの事業評価実施</p>	<p>○ 各専門チームから、今年度実施事業についての9月末までの実施状況について報告を求めた。報告にあたっては、実施状況に加え成果、課題及び課題への取組を記載することとし、チーム内での検証が行われることを狙いとした。</p>	<p>【事業評価実施】</p> <p>成果；各事業に対する専門チームの責任体制が図られる。</p> <p>課題；自己評価の基準に差がある場合がある。</p> <p>課題への取組方針；各チームの自己評価については事業推進委員会の場において更に議論を行う。</p>		

<p>○ 2月 推進委員会で、3年間（26年度～28年度）の事業評価を実施</p> <p>○ 2月 外部評価委員会開催。評価結果をホームページで公表</p>	<p>○ 文部科学省の「中間進捗状況報告書」の提出に合わせて、11月～12月にかけて、3年間の事業評価を実施した。</p> <p>○ 2月27日（月）に外部評価委員会を開催する。なお、平成28年度から評価委員を2名増員し、7名の評価委員から評価をしていただくこととなった。</p>	<p><b>【3年間の事業評価】</b></p> <p>成果：事業実施後における事業の進捗状況、課題、成果等を客観的に評価できた。</p> <p>事業は全体的に順調に進捗し、当初目標を上回る効果もでており、地元ナース養成の体系的な取り組みの構築が出来つつある。</p>		
--	--	--	--	--

【就職先開拓】

計 画	実施状況	成果と今後の課題	評価	
			自己	外部
<p>○ 4月 学内の県内定着促進委員会との連携を図り、採用計画の情報収集、就職ガイダンスを実施する。</p>	<p>○ 学内の県内定着促進委員会と連携し、「キャリア支援セミナー」と「地域医療体験セミナー」を開催した。 「キャリア支援セミナー」は県内の病院から大学に来ていただき、各ブースにおいて学生に対して病院の説明をして頂くもので、県内の35の病院が参加したが、そのうち小規模病院（老健施設を含む。）は14施設であった。46名の学生が参加した。 「地域医療体験セミナー」は、県内の小規模病院での看護の体験のため、6月に2病院（河北病院、川西湖山病院）、9月に1病院（こころの医療センター）で実施した。参加学生は、河北病院が9名、川西湖山病院が3名、こころの医療センターが15名であった。 採用計画の情報収集については、キャリアセンターにおいて、募集要項を収集している他に、本学の卒業生がいる病院には卒業生からのメッセージを添えてもらうようお願いしている。情報収集した募集要項はキャリアセンターに掲示しているが、併せて病院独自で有している奨学金制度についても情報を掲示している。</p>	<p>【県内定着促進委員会との連携】 成果；「地域医療体験セミナー」は実習施設となっていない病院の看護を体験できる機会であり、見学や先輩看護師との交流があり、学生が小規模病院に目を向ける機会となり、学生の関心も高かった。 課題；学生の小規模病院への関心を高めるため、就職先としての医療機関の魅力をアピールする必要があるが、それを効果的に伝えきれていない。 課題への取組方針；医療機関側での対応が求められる面もあるが、小規模病院で働くと言う意義を学生に伝えていく。</p>	A	A
<p>○ 10月 保護者への本事業のパンフレット送付</p>	<p>○ 本事業の取組や地域の小規模病院での看護職の方の投稿等を掲載したパンフレット（「Jナース通信」）を作成し、保護者、小規模病院等に配布した。 なお、Jナース通信は、年2回（10月、2月）発行することとした。</p>	<p>【パンフレット送付】 成果；本学教育振興会で発行している広報誌と共に、看護学科学生保護者に対しJナース通信を送付した。学部学生の保護者が小規模病院等に関する情報を得る機会となった。 課題；情報提供の機会はできたが、まだ2号の発行である。 課題への取組方針；今後も年2回の発行を継続していく。</p>		

